

都市再生整備計画 フォローアップ報告書
旭川都心地区(2期)

令和3年2月

北海道旭川市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見	
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性		
指標1	買物公園通行量	人	117,591	120,000	108,160	確定 ● 見込み	△	あり なし	— ●		H 年月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	旭川西武閉店などにより通行量は大きく減少したが、再開発事業や地域住民によるソフト事業の動きもあり、徐々にではあるが通行量に回復基調も見られる。
指標2	都市部居住人口	人	15,946	16,200	16,212	確定 ● 見込み	○	あり なし	— —		H 年月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	整備方針に基づいた事業を進めることで、安心して生活できる都市機能や、賑わいある魅力的な都心空間の創出につながり、目標値を達成することができた。
指標3	旭川市民文化会館利用者数	人	248,399	270,000	268,836	確定 ● 見込み	△	あり なし	● —	235,343	R2年10月	×	コロナ禍で公演等が中止となったため <input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	目標値は達成できなかったが、文化会館周辺に設定されている、文化芸術ゾーンとも連動し、事業によるソフト事業も合わせ一定の効果はあった。
指標4						確定 見込み		あり なし			H 年月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	
指標5						確定 見込み		あり なし			H 年月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見	
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性		
その他の数値指標1	歩行者通行量(イオンモール前)	人	8,150	/	9,045	確定 ● 見込み	/	/	/	/	H 年月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	本事業や新たな集客施設の効果により、落ち込んでいた数値が徐々に回復基調にある。
その他の数値指標2			/	/	/	確定 見込み	/	/	/	/	H 年月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	
その他の数値指標3			/	/	/	確定 見込み	/	/	/	/	H 年月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した 今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために 行う方策	魅力ある都心空間の形成	・駅前広場や北彩都ガーデン等、これまで整備した施設を活用したイベント等を開催しながら、このエリアが魅力ある都心空間であることをPRした。	・コロナ禍により予定していたイベント等も中止となり、十分なPRの実施とはならなかった。	・コロナ収束後に向けて出来るPRを吟味し、まちの魅力アップにつなげていく。
	都市部の交通利便と回遊性の向上	・都市部の交通利便性と回遊性の向上を図るため、道路等の整備を検討した。	・整備を要する箇所を選定等を進めている。	・今後も検討を進める。
	安心して子育てや生活ができる都市機能の充実	・子どもや子育て中の保護者が相談しやすく、また、一般利用者にも有効活用されるよう検討を行った。	・施設の有効活用を一層促進するため、インターネット上で施設の利用状況が確認できるよう整備することとした。	・今後も市民への周知、利用しやすい環境整備を図る。
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	市民、観光客が交流し、賑わいある都市空間の形成	・市民が中心となり組織した「旭川市中心市街地活性化協議会企画推進分科会」により、賑わい創出を図った。	・イベント等を実施することで、市民等の来街に繋がっている。	・今後も市民が中心となり活動することで、賑わいを創出するとともに、活動に加わる市民の増加を図る。

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項

都市再生整備計画 (精算報告)
旭川都心地区(2期)

北海道 旭川市

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	北海道	市町村名	旭川市	地区名	旭川都心地区(2期)	面積	412 ha
計画期間	平成 27 年度 ~ 令和 1 年度	交付期間	平成 27 年度 ~ 令和 1 年度				

目標

大目標 道北の拠点都市として、活力ある都心空間を創造する。

- 目標1 安心して子育てや生活ができる都市機能の整備(都市機能向上)
- 目標2 市民や観光客が交流し、賑わいある都心空間の整備(地域経済発展)
- 目標3 魅力ある高質な都心空間の形成(魅力づくり)
- 目標4 都市部の交通便利と都市内回遊性の向上(交通便利向上)

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- ・JR旭川駅を中心とした旭川都心地区は、北海道(道北)の経済や行政、さらには文化や芸術においても拠点的な都市機能を担っている。
- ・駅に接続する買物公園は、昭和47年に全国初の恒久的な歩行者天国として誕生し、旭川の顔となって中心部の商店街を形成している。
- ・しかし、モータリゼーションの進展や市街地の外延化、また大型商業施設の郊外への進出などから、買物公園の通行量は減少傾向となり、平成21年に中心部の百貨店(丸井今井)が閉店するなど中心市街地の活力が低下し、都心部としての魅力が失われつつあった。
- ・一方で、旭川市内の郊外に位置する旭山動物園には、道外や国外からの多くの観光客が来園している。
- ・国鉄民営化により中心部に生み出された旭川駅周辺の土地を活用し、平成8年度から26年度の事業期間で約86haの土地区画整理事業と合わせて鉄道高架事業や関連街路事業などが行われ、都心部において新たなまちづくり「北彩都あさひかわ整備事業」が進められた。
- ・「北彩都あさひかわ整備事業」により、これまで鉄道と川で分断されていた神楽地区が、鉄道高架と2つの橋梁整備により中心部と結ばれ、新たな市街地となる北彩都地区と共に中心部と一体となったまちづくりが進められている。
- ・また、平成22年3月(5年計画)に都市再生整備計画(旭川都心地区1期)、平成23年3月(5年計画)に旭川市中心市街地活性化基本計画を策定し、旭川駅に隣接する観光物産情報センターの整備や北彩都ガーデンなど観光客の交流の場の整備や、公会堂改修、7条緑道など常磐公園周辺の文化芸術ゾーンの整備、また旧丸井今井の活用などの事業を実施した。
- ・このような様々な取組により、これまで減少していた買物公園通行量が増加に転じるなどの一定の効果が現れ、更には平成27年春に旭川駅に隣接した大規模な商業施設がオープンする予定である。
- ・しかし、一方では依然として平成26年3月に買物公園の大型商業ビルの1つが閉店するなどの現状がある。
- ・平成26年5月に内閣府の地域活性化モデルケースとして選定を受けた提案書「北のプラチナシティー“あさひかわ”」では、拠点都市としての中心市街地が果たす役割を掲げており、今後とも中心市街地への取組を積極的に進める。

課題

今後の人口減少や超高齢社会を迎える中、当該都心地区は旭川市の都心部としてだけでなく、道北の都心部として様々な都市機能や賑わいなどを維持しなければならない。1期計画での効果を踏まえ、今後の2期計画では以下の課題に取り組む。

- ・道北の拠点都市として活力ある都心部を形成するため、更に多くの観光客が来街し、また居住者が増加するなど、魅力ある高質な都心空間を形成する必要がある。
- ・観光客など誰もが訪れやすい都心部にするため、引き続き道路などのバリアフリー化や案内サインの整備を進めると共に、駅やバス発着場が集積する買物公園の冬期間の移動円滑化を進めるなど、更に都市部の交通便利性と回遊性向上を図る必要がある。
- ・来街者を増加させ地域経済を活性化するため、市民や観光客が集う交流空間の整備や、来街する切っ掛けとなるイベントを開催するなどの事業を継続し、更に賑わいある都心部を形成する必要がある。
- ・都心部の居住者を増加し活力ある都心部形成のため、住民が安心して子育てや生活ができるよう都市機能の充実を図る必要がある。

将来ビジョン(中長期)

- ・第7次旭川市総合計画では、「人が輝く北の文化のかおるまち」を都市像に掲げ、歴史、文化、産業などの地域資源を活用し、市民と行政がともにまちづくりを進めていくことを目指すとしている。
- ・総合計画の都市像を達成させるための基本目標の1つを「人が行き交い、元気な経済が展開するまち」とし、その目標達成のため「都市機能と生活環境が充実したまち」や「拠点機能の整備」を推進している。
- ・平成26年5月に内閣府より地域活性化モデルケースの選定を受けた。「北のプラチナシティー“あさひかわ”」では、中心市街地が果たす役割として「買物公園」、「医療集積」、「郊外アクセスの良さ」を活かし、冬でも便利で快適な移動手段や生きがい溢れる充実した生活の実現」を目指すとしている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
買物公園通行量	人	買物公園の歩行者通行量(宮下通~8条通・7月金、土曜日の平均値・10時~20時)	市民や観光客の交流、都心部の賑わいや回遊性について把握(目標2, 4)	117,591	平成26年度	120,000	令和1年度
都心部居住人口	人	都心部居住人口(9月末住民基本台帳)	安心して子育てや生活が出来る環境、また魅力ある都心空間形成についての把握(目標1, 3)	15,946	平成26年度	16,200	令和1年度
旭川市民文化会館利用者数	人	市民文化会館(ホール、会議室、展示室)の年間利用者数	市民や観光客の交流や都心部の賑わい、また魅力ある都心空間形成について把握(目標2, 3)	248,399	平成25年度	270,000	令和1年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1:安心して子育てや生活ができる都市機能の整備(都市機能向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て環境の向上のため、子どもからの相談や子育て中の保護者からの相談を受けるなどの機能を持ち、災害時には地域の避難所となる総合子ども教育センターを整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合子ども教育センター整備事業(提案事業:地域創造支援事業)
<p>整備方針2:市民や観光客が交流し、賑わいある都心空間の整備(地域経済発展)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都心部の総合公園として買物公園と共に活用され、文化芸術ゾーンの市民の憩いの場としても多くの市民に利用されている常磐公園の整備を進める。 ・北彩都ガーデンの一部として、観光客や市民にとって魅力的で交流の場となる宮前公園の整備を進める。 ・誰もが利用しやすい都心の交流施設として、総合子ども教育センターの整備を行う。 ・都心部への来街者を増加させるため、買物公園や7条緑道などを活用し市民や観光客などが屋外で気軽に休憩出来るオープンカフェ事業を行う。 ・地域経済の発展や賑わいある都心部形成のため、中心部の小規模店舗の魅力を発信するため各店舗が連携した「まちゼミ」事業を推進する。 ・平成27年の北彩都ガーデンのグランドオープンを祝う式典や、今後更に北彩都ガーデンの魅力を広くPRするためのイベントなど、市民や観光客など多くの人が都心部に来街する切っ掛けとなり、都心部の賑わいへ繋がるソフト事業を行う。 ・旭川駅と神楽地区を結ぶ橋梁の完成等により利用者が増加している「道の駅」について更に利便性を向上し、観光客などのニーズに応えるよう整備を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宮前公園整備事業(基幹事業:公園事業) ・常磐公園整備事業(基幹事業:公園事業) ・総合子ども教育センター整備事業(提案事業:地域創造支援事業) ・オープンカフェ事業(提案事業:地域創造支援事業) ・まちゼミ開催事業(提案事業:地域創造支援事業) ・賑わいづくり事業(提案事業:まちづくり活動推進事業) ・道の駅整備事業(提案事業:まちづくり活動推進事業) ・常磐公園周辺利活用促進調査(提案事業:事業活用調査)
<p>整備方針3:魅力ある高質な都心空間の形成(魅力づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都心部歩道のカラー化やロードヒーティングなど、利便性高く、高質な都市空間を形成する。 ・北彩都ガーデンの一部として、観光客や市民にとって魅力的で交流の場となる宮前公園の整備を進める。 ・国の合同庁舎を中心とし市の公共施設などが立ち並ぶシビックコア地区では、各施設の敷地整備において境界に柵などを設置せずに、施設利用者のみならず市民が休憩など利用できるベンチや芝生広場が整備されており、地区内の回遊性を高めるための歩行者通路や、各敷地と接続した広場などを整備し、更に魅力ある都市空間を形成する。 ・北彩都地区のまちづくりにおいては、忠別川河川空間の自然を都市へ引き込む自然豊かなまちづくりを進めており、北彩都地区から既存市街地へ延びる街路に、街路樹と平行して沿道植栽の整備を土地利用に合わせ進めることで、緑豊かな高質な都市空間を形成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宮下・1条間仲通線整備事業(基幹事業:高質空間形成施設) ・14・15丁目間横通線整備事業(基幹事業:高質空間形成施設) ・宮前公園整備事業(基幹事業:公園事業) ・シビックコア広場整備事業(基幹事業:地域生活基盤施設) ・沿道植栽事業(基幹事業:高質空間形成施設)
<p>整備方針4:都市部の交通利便と都市内回遊性の向上(交通利便向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都心部の道路整備、また案内板の整備により、都心部の交通利便と都市内回遊性の向上を図る。 ・買物公園や接続する道路にキャノピーを整備し、雨天時や降雪期間などの都市内回遊性の向上を図る。 ・都心部の駐車場利用の利便性を高めるため、共通利用が可能な駐車場事業の運営や機器の改修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・14・15丁目間横通線整備事業(基幹事業:道路事業) ・宮下・1条間仲通線整備事業(基幹事業:高質空間形成施設) ・14・15丁目間横通線整備事業(基幹事業:高質空間形成施設) ・案内板整備事業(基幹事業:地域生活基盤施設) ・キャノピー整備事業(基幹事業:高質空間形成施設) ・共通利用駐車場推進事業(提案事業:地域創造支援事業) <p>(関連事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旭川市中心市街地活性化協議会企画推進分科会提案事業
<p>その他</p>	

